Timing and number of marriages in competitive marriage models

関西大学経済学部　野坂博南

（要旨）この論文では、競争的な結婚市場のもとで教育年数の異なる男女がパートナーを探すモデルを 2 期間モデルで考察したものであり、均衡における結婚数とそのタイミングに関しての含意を得ることを目的としている。均衡においては、教育年数の高い女性の賃金が上昇し結婚市場における魅力度が増すと、教育年数の高い男性も彼女らが技能を身につけるのを待つため結婚を遅らせることになる。一方、こうした男性は結婚市場においては高い所得をもたらし結婚相手として望ましいため、彼らの結婚の遅れは教育年数の低い男女の結婚時期を遅らせることになる。結婚を遅らせた結果、若い頃は不確実であった所得が確定する。その結果、若い頃は所得が不確実なため結婚可能であった男性も、所得が低いと判明した場合は結婚が困難になり、特に教育年数の低い男性では晩婚化が生涯未婚率の上昇に結びつくことになる。

このモデルによりいくつかのアメリカの結婚市場のトレンドが説明可能となる。列挙すると、晩婚化、教育年数の高い女性の結婚率の上昇、教育年数の低い人の生涯未婚率の上昇、教育年数の高い人同士の結婚数の増加（Educational Homogamy）。論文では、競争的な結婚市場と所得の不確実性がこうした事実を説明する鍵となる可能性を示す。